一般社団法人 倫理研究所

令和３年度
年次報告

2020-2021
ANNUAL REPORT

RINRI Institute of Ethics

一般社団法人倫理研究所
令和３年度　年次報告
ANNUAL REPORT

令和２年９月１日～令和３年８月31日

CONTENTS

4 **活動トピックス**
… 新施設が完成
6 …「地球倫理推進賞」の贈呈
7 … 丸山奨学金による支援
… 東日本大震災教育支援基金
8 … 東日本大震災メモリアル 2021
9 … 青年フォーラム
10 … しきなみ子供短歌コンクール
11 … 他団体への寄付・協賛
12 **疫禍を奇貨として**
14 **倫理の研究と成果の発信**
16 **家庭倫理の普及**
18 **企業倫理の普及**
20 **海外の普及**
22 **倫理を学ぶ多彩なセミナー**
24 **書道や短歌などの文化活動**
25 **出版物の刊行**
28 **組織概要**
29 … 家庭倫理の会・倫理法人会拠点数
30 … 主要施設・沿革

令和3年度、倫理運動は創始75周年を迎えました。引き続き「地球倫理の推進」「日本創生」の二大理念をスローガンに掲げ、誇りある日本文化の自覚と発信、「共尊共生」の実現をめざして諸事業を展開。前年度から続く感染症の影響を受け、家庭倫理の会・倫理法人会の諸活動は中止や自粛を余儀なくされましたが、オンラインシステムを駆使するなどの工夫を重ね、諸事業を推し進めました。

研究部門では、専門研究者を中心とした研究体制のもとで純粋倫理、日本文化、倫理文化等の研究を推進したほか、刊行物や学会・学術誌での研究発表などを通して、その成果を国内・海外へ発信しました。また、普及・教育・出版等の各部門の事業に資する知的資産の拡充に努め、創始75周年記念行事の一環として、「倫理文化研究センター第3回シンポジウム」を開催しました。

普及部門の生涯局では、「根を広げ、花を咲かせる」をモットーに、純粋倫理を伝え、同士の輪を広げて、各地域の建全な家庭づくりに貢献するため、方針に則った組織連営を基盤に、創意工夫を凝らした諸行事を展開しました。また、支部長研修を全国25カ所で行なうなど会活動の最前線を担う役職者の育成に努め、活動の健やかな根を広げるための「土づくり」に注力しました。

文化活動は、書道・短歌によって家族をつなぐ芸術活動を展開。「第16回しきなみ子供短歌コンクール表彰式」は、しきなみ子供短歌賞・文部科学大臣賞の表彰に絞り、受賞者3名とその家族を含む33名を招いて、規模を縮小して開催しました。本事業は伝統文化の継承だけでなく、子供達の国語力・感受性の向上にも貢献する公益事業として、教育関係者からも高く評価されています。

創始75周年。疫禍を奇貨として雄々しく活動を展開した令和3年度。

普及部門の法人局では、会員企業数8万社体制確立5カ年計画を立案し、ゆるぎない10万社体制を実現可能な距離に引き寄せるべく尽力しました。感染拡大防止のために一部の主要行事の中止や集会型行事が制限されましたが、リモートによる会議や行事の開催を試みるなど工夫を重ねて諸活動を推し進めました。結果、令和3年度期末の会員企業数は7万1817社に達しました。また、10万社にふさわしい組織体制をめざし、役職者の育成強化を図ると共に「より現実に則した組織」へと移行するための諸準備も行ないました。なお、「倫理17000」ライセンスは8社が新規認定を受け254社となりました。

教育部門の富士高原研修所は、「いのちとのつながり」をテーマとして、富士山麓の豊かな自然に囲まれた秀逸な建築空間を舞台に、受講者の心身浄化と生活実践力の向上を力強くサポートするセミナーを開催しました。政府の感染防止対策ガイドラインをもとに、各セミナーともきめ細やかな運営を心がけ、敷地内の整備など、受講環境の更なる充実にも取り組みました。

出版部門では、丸山敏秋理事長の新刊本『みちしるべ』『経営力を磨く』をはじめ『夫と妻は合わせ鏡』の3冊を発刊したほか、定期刊行物も計画通り刊行しました。純粋倫理の言葉の中から選りすぐりの31篇に解説を加えた「標語カレンダー」と、表紙のカラーが異なる2種類の「実践手帳」も好評を博しました。

広報活動では、「第24回地球倫理推進賞贈呈式」を令和3年3月29日、感染防止策を講じて都内ホテルにて開催しました。「東日本大震災教育支援基金（りんりん基金）」の奨学サポートは、平成25年度認定の第1期〜4期生48名のうち47名の給付期間が満了しました。また、ホームページを中心とするインターネットによる発信力の向上に努めました。創始75周年記念事業として建設中だった新施設は令和2年12月に竣工し、公開に向けての諸準備にも着手しています。

国際部門の地球倫理推進本部では、感染症の影響により、「地球倫理の森」創成事業への沙漠緑化隊の派遣を中止しました。一方、オンラインを活用した教材や情報の提供体制を整備し、関係各国との連携を強化。国情に応じた倫理普及、及び地球倫理の実践活動を推進し、人づくりを中心に海外組織の拡充を図りました。また、アジア諸国の留学生3名、中国・内蒙古大学学生60名に「丸山奨学金」を支給しました。

本年次報告では、令和3年度の事業について、写真や図表を多用して包括的にご紹介します。

令和３年度
活動トピックス

社会教育団体として、
さまざまな生涯学習活動を
展開しました。

倫理運動を象徴する建築物が完成

01 創始75周年記念事業の新施設が完成

真新しいその建物に足を踏み入れると、設計段階では気づかなかったいくつもの特色があることに驚かされた。たとえば二元対立ないし双極性の対立を止揚した世界がある。

――縄文的なものと弥生的なものとの融合
――神話的にいえば、闇と光の融和
――超古代を思わせる荒々しい技法と超最先端技術の出会い
――精神分析的にいえば「生の本能」と「死の本能」の併存

そうした二元が対立せず、一つの建物としてないまぜに融け合っている。大地から生えてきたようなラセン状の階段は、天井の九つの窓を通って天空に昇っていくかのようだ。

『倫理２０２１年８月号』
「異界と倫理（２）建物と霊性―内藤廣氏の二つの作品を通して」
丸山敏秋

令和2年12月15日、本部ビルの真向かいに、倫理運動創始75周年を記念し、建設が進められてきた新施設が完成。施工者の前田建設工業株式会社より、建物の引き渡しが行なわれました。設計は、富士高原研修所の建物と庭園の「グランドデザイン」を行なった建築家・内藤廣氏が手がけました。

「縄文と弥生」をキーワードに造られた建物は、太古から使われるコンクリートを素材とした、荒々しい存在感のある立方体を、高い精度の工業製品であるガラスの皮膜で包みこんでいます。そこには原始的で物質的存在のあり方を示す縄文的な部分と、抽象的な幾何学を象徴

外の音が遮断された静寂な空間が広がる 2 階ホール。天窓からは雲の動きや太陽の光を感じることができる

特殊タイルが敷き詰められた 1 階。ライトアップされたコンクリートの柱が上階とは違った雰囲気を醸し出す

する弥生的な部分の二つの価値観の対比が存在します。

「建築的な存在そのものが人に働きかけ、魂をゆさぶり、意思をもつ建物を作りたい」という内藤氏の理念を具現化した新施設は、今後、純粋倫理ならびに地球倫理を核としたさまざまな用途への活用が見込まれており、令和 4 年度の公開に向けて準備が進められています。

地球倫理の推進に、実践面で貢献している団体を顕彰しました。

02 「地球倫理推進賞」の贈呈

「第24回地球倫理推進賞贈呈式」を、令和3年3月29日に都内ホテルで開催しました（後援・文部科学省、産経新聞社、全国民間放送ラジオ局37社）。応募総数38件（国際16、国内22）の中から、国際活動部門は「認定ＮＰＯ法人 ヒカリカナタ基金」（竹内昌彦理事長）、国内活動部門は、「ＮＰＯ法人 抱樸」（奥田知志理事長）を表彰しました。併せて、文部科学省総合教育政策局 地域学習推進課 田中勉課長補佐から、文部科学大臣賞の表彰状が贈られました。

「ヒカリカナタ基金」は発展途上国の視覚障害者への教育、自立支援を行ない、２０１７年に小児視力改善のための基金を設立。現地医療機関と連携し、多くの子供達の視力回復支援を継続。国内では障害者への理解と人権向上を目的とした講演活動を通して、点字ブロックの活用を促すなど、障害者の生活向上へ寄与する活動を続けています。

「抱樸」は経済的困窮状態や社会的孤立状態の人々の自立支援、社会的処遇の改善、地域生活の安定等に関する支援事業を行ない、生活困窮者・孤立者が抱えるハウスレス・ホームレス状態の解決と、「一人にしない断らない伴走者」として看取り支援に至るまで、対象者の人生支援に尽力しています。

贈呈式には２６７名が出席。地球倫理の提唱者である丸山竹秋会長の生誕１００年にあたるため、地球倫理の原点を振り返ることを目的に、会長の足跡をたどる映像の上映も行なわれました。記念講演では、両団体が取り組みと成果および活動現場の模様を発表し、出席者に深い感銘を与えました。

【国際活動部門】認定 NPO 法人ヒカリカナタ基金

【国内活動部門】NPO 法人 抱樸

海外および国内における教育支援

03 丸山奨学金による支援

令和３年度も「丸山奨学金」２００万円を中国内蒙古大学（60名）に支給しました。併せて2カ国3名のアジア諸国の留学生（丸山奨学生）にも奨学金総額４２５万円を支給し、勉学を支援しました。

令和３年度 丸山奨学生（３名）

国籍	研究機関	研究テーマ
中国	大阪大学大学院	日本語のほのめかし表現
中国	筑波大学	日中両国における匠の精神
イスラエル	大阪大学大学院	日本の製薬政策と規制改革

丸山奨学生は将来日本との学術・文化などの友好交流の架け橋として期待される人材であり、各自の専門研究テーマを探求するとともに、「地球倫理」を富士高原研修所で体験学習し、日本の精神文化の理解を深めています。

クシェレビチ・ハダスさん（イスラエル）

ライシュンブン
賴 俊雯さん（中国）

04 東日本大震災教育支援基金（りんりん基金）

「東日本大震災教育支援基金」は、東日本大震災により両親や家族を失った遺児や若者たちの勉学を援助し、教育環境の整備に役立てることを目的として、平成23年4月に開設されました。基金は二つの分野への支援として活用され、開設以来の支援総額は5億５２７５万円に上ります（令和3年8月31日現在）。

「タグボート支援」

被災地における子供の教育支援活動を行なうボランティア団体を対象とした支援です。平成23年11月より支援を開始し、以来、23団体に計1億３９６３万円を支給しました。平成28年3月11日をもって寄付の受付を終了し、平成29年度をもって支援を完了しています。

「奨学サポート」

被災による経済悪化によって大学進学が困難となった高校3年生を対象に、①入学支度金 ②授業料 ③生活費を給付。返済義務のない奨学金制度として、第一期生（平成25年度認定）から第四期生（平成28年度認定）まで計48名の大学進学・大学生活をサポートしています。これまでの奨学金総額は4億１３１２万円で、そのうち本年度は４６７万円を給付しました。また、第一期から第四期のうち6年制大学在学中の1名を除く47名の給付期間が満了しました。

りんりん基金
東日本大震災
教育支援基金

震災から10年、鎮魂を捧げ躍進を誓う

深紅の行動旗が掲げられた舞台で、感謝と決意を述べる高橋和浩さん（りんりん基金第二期奨学生）

05 東日本大震災メモリアル2021

東日本大震災から10年の節目を迎え、被災した倫理法人会員が当時の体験や思いを振り返り、それらを次世代に継承することを目的に、令和3年3月10日、仙台国際ホテル（宮城県仙台市）にて「東日本大震災メモリアル2021」を開催しました。

当日は会場となったホテルの協力も得ながら感染症対策にも万全を期し、岩手県、宮城県、福島県の倫理法人会を中心に218名が出席。

舞台上部には、大震災により甚大な被害を受けたにもかかわらずいち早く活動を再開し、顕著な活躍をした5つの倫理法人会に贈られた深紅の行動旗が掲げられました。

扇功氏（宮城県倫理法人会会長）は開式の挨拶の中で、全国から寄せられた応援と「東日本大震災教育支援基金（りんりん基金）」への感謝を述べました。当時を振り返るスピーチでは会員を代表して4名の方々が登壇。家族を亡くされた悲しみを乗り越え、希望を胸に倫理運動の歩みを進めたエピソードや、「こんな時こそ倫理ではないか」との言葉に感銘を受け「経営者モーニングセミナー」の再開に至った倫理法人会、悲痛な思いがこみ上げる中で、丸山敏秋理事長の被災地訪問をきっかけに希望を強く持つことが出来たという喜びの報告など、それぞれが当時の体験や思いを語りました。

そして、りんりん基金奨学生を代表して第二期奨学生である高橋和浩さんが登壇。時折声を詰まらせながら支援への感謝を述べるとともに、将来への抱負を力強く語ると会場から大きな拍手が贈られました。

開式の挨拶を述べる扇功氏（宮城県倫理法人会会長）

「未来を創る」青少年の健全育成をめざして

7名の弁士が登壇。夢や希望を堂々と述べた

06 青年フォーラム

青年フォーラムは、約20年前から行なっている沙漠緑化活動とともに青年活動を支える柱です。

企画・実施計画から演出・構成、事後の後始末までの過程を、青年たちが互いに力を合わせてつくり上げていきます。

青年たちは、自分の学業や仕事を両立させながら、険しい道のりに挑戦して準備を進めることになります。令和3年度は、予定していた4会場（東京都・京都府・熊本県・沖縄県）のうち、感染症拡大の影響を受け、唯一東京都のみの開催となりました。

二度の開催延期の末、令和3年6月20日、観客制限がなされた有楽町よみうりホール（東京都千代田区）において、7名の弁士が登壇し、それぞれの実践によって切り拓いた体験でつかんだ夢や希望、決意を発表しました。

第二部では、息の合ったダンスパフォーマンスを披露し、場内は感動と熱気に包まれました。

実行委員会メンバーによる創作ダンス

左から「しきなみ子供短歌賞」「文部科学大臣賞」に輝いた岡本さん、正村さん、中村さん

伝統文化教育への取り組み

07 しきなみ子供短歌コンクール

「第16回しきなみ子供短歌コンクール」を開催し、全国の小学生4万7003名（933校）より応募がありました（後援・文部科学省、全国民間放送ラジオ局37社）。都道府県別の予選を経て令和2年12月4日の最終選考会では、中国放送東京支社ラジオ部長・宗像総一郎氏、歌人・加藤千恵氏、しきなみ短歌講師・長井陽子氏の3名が最終選考委員を務め、しきなみ子供短歌賞（小学校低学年・中学年・高学年の部）の3名、特選21名、入選287名、佳作441名が選出されました。

令和3年2月21日、倫理研究所（東京都千代田区）で行なわれた表彰式では、「しきなみ子供短歌賞」「文部科学大臣賞」受賞者と受賞者家族を含む33名が出席。例年の表彰式とは異なり、今年は感染症拡大防止の一環として規模を大幅に縮小した中での開催となりました。

しきなみ子供短歌賞の受賞者3名には、併せて文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課 田中勉課長補佐より、「文部科学大臣賞」が授与されました。

表彰式会場の様子。終始和やかな雰囲気のなか行なわれた

しきなみ子供短歌賞受賞作品

低学年の部／岡本真史／大阪・2年生
ひさしぶりやっとしゅうごうしゃしんだねカラフルマスクのえがおさいたよ

中学年の部／正村仁智利／東京・3年生
はち植えのみどりのロケットオクラの実入道雲へとカウントダウン

高学年の部／中村夢優／千葉・6年生
サヤをむく祖母の背中によりかかりあのねと言うとふふと笑った

倫理普及の後方支援として

08 他団体への寄付・協賛

令和3年6月8日丸山理事長が伊勢神宮を訪れ、「伊勢神宮式年遷宮御造営資金」として100万円を寄付しました。同寄付は、平成8年に丸山が理事長に就任以来、倫理研究所として毎年行なっています。

7月2日には、癌研究の領域において特に優れた業績をあげた学者・研究者に対する学術賞の贈呈や研究奨励助成などを行なっている「公益財団法人高松宮妃癌研究基金」の事務所を大木理事が訪問し、財団の佐藤進参与へ寄付金100万円を手渡しました。同団体へは平成6年から毎年寄付を行なっています。

創始者の生誕地である福岡県豊前市へは、7月13日に前川朋廣副理事長が会員諸氏とともに訪問。「豊前市芸術文化振興事業協賛金」への寄付目録を後藤元秀市長へ手渡しました。昭和63年より毎年行なってきた同寄付は、今回で34回目となりました。

神宮禰宜の森真吾氏より感謝状を拝受する丸山理事長

後藤元秀豊前市市長（左から3人目）に目録を手渡す前川副理事長

佐藤進参与へ寄付金を手渡す大木理事

伊勢神宮式年遷宮造営資金	公益財団法人高松宮妃癌研究基金	豊前市芸術文化振興事業協賛金
約1300年前から続けられている伊勢神宮最大の神事である式年遷宮。20年に一度、古代からの形式を継承しながら社殿を造営。御装束神宝も新しく調製し、大御神に捧げられます。遷宮全体にかかる資金は約550億円にものぼります。	故高松宮妃喜久子殿下のご発意により昭和43年に設立された、癌に関する研究奨励・助成を目的とした財団法人。「癌撲滅」をめざし、様々な事業で、癌に関する研究を支援しています。	倫理研究所創立者・丸山敏雄の生誕地である福岡県豊前市天和。同市では、文化活動の推進を図るため、施設の整備・活用、美術展やコンサートの開催、文化体験や伝統芸能の保存・継承など、芸術文化の振興を行なっています。

ZOOM を活用した「子育て発表会」の様子

疫禍を奇貨として

各会では、新型コロナウイルスへの厳重な感染予防対策として、適切な会場の確保や参加者への配慮など、きめ細かい準備のもと「おはよう倫理塾」「経営者モーニングセミナー」などの活動を続けてきました。各地で工夫を凝らして行なわれているさまざまな取り組みには、役職者の「より広く純粋倫理を伝えよう」とする意気込みが感じられます。

家庭倫理の会

各地の家庭倫理の会では、昨年の活動休止期間中20～40代の会員を中心に、会員同士の交流を止めない自発的な意欲から始まった取り組みとして、オンラインシステムを利用した「おはよう倫理塾」や「倫理のつどい」「子育てトーク」などを試験的に開催しました。倫理を学習する機会の幅を広げ、遠距離や他会の会員と交流が可能になるなど、回を重ねるごとに参加者が増えました。一方、PCが苦手な会員や高齢会員の参加が進みづらいなどの課題が見えました。今後の有効性については、継続して研究調査を進めていきます。

文化活動

短歌は、歌会をリモートで行なうなど、これまでにない変化を求められました。リモート歌会では、これまで交流が難しかった離れた地域をつなぐことも可能となりました。今後は、短歌講師が不在の海外や遠隔地での利用も期待されています。

書道においても、従来の集会型の活動ができない中、文化部専任研究員が筆遣いを動画で撮影し、会員に提供するなど新しい試みが行なわれました。

倫理法人会

緊急事態宣言の発令以降、全国の倫理法人会では活動の柱である「経営者モーニングセミナー」(以下、MS)をどのように行なうかが最大の懸案事項でした。MSの開催を継続するため、集会形式とオンライン形式を用意する単会が増加。オンラインの活用によって、会員同士の交流と講話で学ぶ機会も増え、非常時における有効性を実感しました。また、緊急事態宣言が解除されてからは、集会形式でのMSを再開する単会が徐々に増え、集会形式で行なう意義に改めて気づいたという声も多く聞かれました。

国際普及

国際普及を担当する地球倫理推進本部では、講話や研修をオンラインで発信。台湾・アメリカ・ブラジルの拠点と緊密に連携を取り、現地の会友・未会員に向けて純粋倫理の学習機会を提供しました。台湾では、朝礼実習なども含む「倫理経営模範企業研修」を全てリモートで実施。アメリカのMSでは、オンラインの特性を生かした積極的かつ広範囲への普及活動が功を奏し、未会員や州外からの参加者も増加しました。また、今年からカリフォルニア州倫理法人会、サンパウロ州倫理法人会の経営トップセミナーに、日本から研究員や役職者の講話を発信しました。ブラジルに向けては、現地会友の理解を深めるため、事前収録した講話映像にポルトガル語の字幕をつけ、より深く正確に純粋倫理を伝える工夫が行なわれています。

研究センター

研究センターでは、全国の会員活動が休止となった時期から、「この非常時をどう考えるか」をテーマに、研究センターの6名の専門研究員に論文の執筆を依頼。法人会員組織を中心に学習資料として発信しました。また、その論文に加筆補正を加えたものを月刊誌『倫理』2020年12月号、2021年1月号に特集として掲載しました。

富士高原研修所

富士高原研修所における各種セミナーは、政府のコロナ対策ガイドラインをもとに開催。受講される皆様の精神的負担を軽減するため、館内の消毒や検温などの体調管理、受講者同士のソーシャルディスタンスの確保など、安心・安全を第一に取り組みました。

「倫理文化研究センター　第３回シンポジウム」参加者一同

倫理の研究と成果の発信

令和3年度の研究センターは、倫理運動に資する研究事業を推進しました。専門研究員を中心とした研究体制のもと純粋倫理、日本文化、倫理文化等の研究に専念。刊行物や学会・学術誌における研究発表等を通して、その成果を国内・海外へ発信しました。また、普及・教育・出版等の各部門の事業に資する知的資産の拡充に努めました。なお、令和2年11月には、創始75周年記念行事の一環として、シンポジウムを開催しました。

研究の方向と重点

純粋倫理の研究、倫理文化に関する専門的研究を積極的に推進し、「倫理文化学」の構築をめざす研究を行ないました。

倫理文化に関する専門的研究

研究者	研究テーマ
内田智士	想像力と利他心や懲罰行動、恩送り行動等との関係についての研究 およびコロナ禍における心の変化についての研究
高橋 徹	「物心とは何か」という問いをきっかけに、人間の無意識を意識化する方法を研究
寛 ボルテール	日本の食文化について歴史学・文化人類学・社会学等の観点からの研究、および日本文化における「心」の概念やその言語学・文化人類学的解釈についての研究
松本亜紀	丸山敏雄の提唱した「無痛安産」観に関する本質的な意義についての考察
平良 直	心とつながりに関する研究、および戦後の大衆運動の教育・学習的側面に関する研究
水野雄司	道徳教育における徳目の史的分析
丸山貴彦	武道にみる心と体のつながりについて、主に「天真体道」の現代的意義を探りつつ考察
李（イ） 致億（チオク）	孟子の性善説に基づく人間の心と感情に関する研究、およびソンビ（士）の現代的な意味に関する研究
龔（キョウ） 穎（エイ）	福沢諭吉の人間観等日本倫理の思想史に関する諸問題を研究

倫理意識調査の実施

令和3年度は「若年層の倫理意識」をテーマとし、若年層の倫理意識の変化について、その詳細を把握するため調査を行ないました。

◇調査企画／倫理文化研究センター研究フェロー 海野 裕（マーケティングプランナー）

◇調査項目／〈倫理33〉への共感性、今日的な倫理観についての共感性、正義感・倫理観・共生意識・社会貢献意識についての自己評価、自己と他者（社会）に対する自己認識、コロナ禍を機にした考え方等

◇調査対象／全国16歳～22歳の一般男女400名（高校生と大学生それぞれ男女100名）

各種研究会の開催

純粋倫理の研究に関する研究会（2回）、倫理文化の専門的研究に関する研究会（3回）を開催しました。

研究成果の発信

創始75周年記念シンポジウム

倫理運動創始75周年記念行事の一環として、「倫理文化研究センター第3回シンポジウム」を、令和2年11月6日～7日の2日間にわたり開催しました。全体テーマは「心と体」で、参加者12名。7名の研究発表と質疑応答、総合討論を行ないました。シンポジウムの内容は、『倫理文化研究叢書』（№8）として刊行しました。

『倫理研究所紀要』（年刊誌）

純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化に関する専門的研究など、多様な研究成果を発信しました。

通巻	第30号
発行部数	1260部

掲載論文

執筆者	テーマ
佐伯啓思	《論説》日本的倫理観について―「ありのまま」と「おのずから」
與那覇 潤	《論説》危機のなかの古典―コロナ禍に「ヨブ記」を読む
丸山敏秋	丸山敏雄と鳥居武二―師弟の深い絆と交わり
内田智士	想像・協調・懲罰
高橋 徹	メタノイア 2025-2026 ―マヤの数学と天文学から見た脱社会化とカタルシス
水野雄司	防災としての倫理観の考察―「寛容」の検討より
松本亜紀	《研究ノート》用語としての「無痛安産」と使用法の変遷
寛 ボルテール	《研究ノート》食の未来―料理・科学・技術
平良 直	《研究ノート》戦後初期における新宗教の台頭と大衆運動の教育・学習実践
龔 穎（キョウ エイ）	《研究ノート》木村鷹太郎『東洋西洋倫理学史』の蔡元培『中国倫理学史』への影響
李 致億（イ チオク）	《研究ノート》「気質変化」の意味と方法について
于 振忠（ウ シンチュウ）	《研究ノート》中国の古代思想と丸山敏雄の心

『倫理』（月刊誌）

純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門的研究に関する諸論考を掲載しました。

通巻	813号～824号
発行部数	6万5400部

『倫理文化研究叢書』

「倫理文化学」構築の一環とするため、『倫理文化研究叢書』（№8）を刊行しました（令和3年5月1日）。書籍タイトルは『心と体―倫理文化研究センターシンポジウム2020』。（関連記事27頁）

研究資料の蒐集と提供

実践体験事例680篇、研究論文477篇を分類整理・保存し、併せて教育・普及・出版の各部門の要望に応じて、情報提供を行ないました。

倫理資料館の運営・管理

純粋倫理の基礎的・専門的研究ならびに倫理文化に関する専門的研究に資する資料の充実化を図り、創始者の遺品蒐集・保存に努めました。

倫理・道徳に関する専門図書を資料として計1753冊登録しました。

研究機関および研究者との交流

「日本家庭教育学会」「人体科学会」「日本国史学会」など諸学会の活動に協賛し、専門家との交流を深めました。また、国際学術会議「Oxford Food Symposium」の研究論文集出版に対して助成を行ないました。併せて、道徳教育および家庭教育を推進する関係団体、ならびにその研究者とも積極的な交流を図り、国内外の国際会議・研究学会において研究発表を行ないました。

子育てセミナーでは純粋倫理を基本に子育ての要点をわかりやすく解説。若い母親や父親に好評を博した

家庭倫理の普及

生涯局はこれまでの方針を踏まえ、「根を広げ、花を咲かせる」をモットーに、純粋倫理を伝え、同士の輪を広げ、各地域の健全な家庭づくりに貢献すべく、連帯の絆を強固にする諸活動の展開に努めました。

「おはよう倫理塾」の開催が滞る一方、各会での「子育てセミナー」と都道府県毎の「子育て活動発表会」を連動させるなど、若手世代を中心に活動の充実を図りました。シニア活動は〈つなぐ・役立つ・輝く〉をキーワードに内容を充実させ、世代間のつながりを強く結ぶべく活動を展開しました。

また、青年活動においても各地域で社会に貢献し得る青年の育成に努めるなど、世代間のつながりを強く結ぶべく活動を実施しました。

おはよう倫理塾

『万人幸福の栞』をテキストに、純粋倫理の学習を深めました。実践力を磨き高めるため、諸活動の制限がある中で、参加者の自己研鑽、相互啓発に努めました。なお、活動休止期間中は、リモート形式による「おはよう倫理塾」の開催を自主的に展開しました。

開催会場	542カ所
参加者数	73万4782名

子育てセミナー

各家庭倫理の会において①妊産婦②乳幼児期の子を持つ親③児童期の子を持つ親④思春期の子を持つ親を対象に開催し、子育てに悩む若い父母層への純粋倫理の普及に努

めました。また、年度の後半はリモート形式による開催など、工夫を凝らしたセミナーを展開し、活動の新たな形が生まれました。

開催回数	1206回
参加者数	7826名

子供倫理塾

「学び・遊び・躾」をテーマに、小学生を対象とした「子供倫理塾」を開催しました。純粋倫理についてやさしく解説するとともに「5アクト」の実践を奨励して、基本的な生活習慣を学びました。

開催回数	322回
参加者数	2125名

子育て活動発表会

都道府県単位で開催し、1年間の活動の成果を語り合い、感動を共有しました。

開催回数	10回
参加者数	458名

シニアスピーチ

シニア世代が豊富な人生経験と、純粋倫理の学びと実践により培った信念を披歴しました。各世代を倫理でつなぐことをめざして、家庭倫理の会単位または県単位で開催を予定しましたが、各地における感染症の拡大防止策にともない、高齢者層の活動は小規模にとどまりました。

開催回数	2回
参加者数	317名

純粋倫理基礎講座

全国の家庭倫理の会会員を対象に開催しました。純粋倫理の基本を『純粋倫理入門』（テキスト本）に基づいて学習し、理解を深めるとともに実践意欲を高めました。

開催回数	1384回
参加者数	2万6162名

青年活動

青年倫理セミナースペシャル

全国の青年リーダーの資質向上と連帯意識の高揚を目的に「青年倫理セミナースペシャル」を2度にわたり開催しました。

第一弾となるセミナーは令和3年5月2日～4日にかけて倫理研究所（東京都千代田区）で行なわれました。身体を動かす実習や即興演劇を体験。失敗を恐れず挑戦をする中で、皆が達成感や一体感を共有する3日間となりました。

また、第二弾となるセミナーは、場所を富士高原研修所（静岡県御殿場市）へと移し、第一弾の続編として令和3年8月21日～23日にかけて実施しました。

富士高原研修所で開催されている「新入社員倫理セミナー」「社員倫理セミナー」などのプログラムをベースに学生と社会人それぞれに対応した内容を準備。3日間を通して、恩の意識を深め、よりよい人間関係を築き、自身の能力を引き出すような講座や実習を行ないました。

青年フォーラム

令和3年6月20日、「青年フォーラムin東京」を開催。当日は7名の弁士が登壇し、自身の夢や希望、決意を堂々と述べました。

続くアトラクションでは、圧巻のパフォーマンスが行なわれ、観客席より盛大な拍手が送られました。最後に実行委員長から来場者にお礼を述べ、青年活動へのさらなる応援や参加を呼びかけ幕を閉じました。

（関連記事9頁）

各単会では工夫を凝らし倫理経営を伝える取り組みを行なった

企業倫理の普及

法人局は会員企業数10万社にふさわしい組織体制の構築をめざし、「地球倫理の推進」「日本創生」を旗印に倫理経営の堅実な普及・教育に努めました。

令和3年度は、倫理経営を基盤とした「経営力」を高めようとする会員の増大を図り、日本創生に寄与する経営者団体として「拡充」路線を踏襲。国内10万社実現に向けた堅実な普及活動による確実な成果をあげることをめざしました。また、講師陣の能力向上に努めることに加えて、倫理経営インストラクターの倫理指導力強化のための教育に力を注ぎました。

倫理経営講演会

「経営力を磨く」をテーマに、令和3年1月～5月にかけて全国の倫理法人会で開催しました。事業体験報告や朝礼実演を交え、倫理経営の重要性や、職場に英気と活力をもたらす朝礼の必要性をアピールし、多くの経営者の賛同を得ました。

開催会場	439カ所
参加者数	2万7365名

経営者モーニングセミナー

毎週1回、早朝に全国の市・区単位の倫理法人会で開催しました。参加者は朝型の生活習慣を体得するとともに、各界で活躍する講師の体験談などを聴講し、企業を健全な繁栄へと導く倫理経営についての学びを深めました。また、会員同士の交流や情報交換も盛んに行なわれました。

職場朝礼の推進

よりよい社風づくりと社員の資質向上をめざして、活力溢れる職場朝礼を推進しました。朝礼用のテキストである『職場の教養』を毎月200万部発行したほか、朝礼研修に力を注ぎ、朝礼実施企業の増大を図りました。

開催回数	3万3349回
参加者数	84万1737名

朝礼研修実施回数	65回
参加者数	899名

後継者倫理塾

企業の未来を担う後継者の育成を目的に開催しました。純粋倫理の学習と実践を通して、よりよい生活習慣と豊かな人間性、真のリーダーシップを備えた将来の経営者の養成に力を注ぎました。（1都1府10県）

開催地	茨城県・新潟県・長野県・埼玉県・東京都・神奈川県・石川県・愛知県・大阪府・福岡県・熊本県・沖縄県
修了者数	127名

経営者の集い

業態により「経営者モーニングセミナー」に参加できない会員や、新規入会者、入会を希望する経営者を対象に、純粋倫理の学びを深める勉強会を各倫理法人会で開催しました。

開催回数	1330回
参加者数	1万9374名

講師・幹部の養成

純粋倫理の深い理解と実践力の強化・向上のために、役職者およびその候補者を対象に、継続して「倫理経営基礎講座」を各会で実施しました。また、「経営者の集い」「倫理経営講演会」における事業体験報告者の話力向上のため「倫理経営講演会」に登壇する法人レクチャラーと新たに就任した法人レクチャラーを対象とした研修を開催。さらに、「倫理経営インストラクター研修」を富士高原研修所で開催するなど講師陣の指導力向上に努めました。

倫理経営講演会事業体験報告者研修＆新任法人レクチャラー研修

開催回数	2回
参加者数	111名

倫理経営インストラクター研修

開催回数	1回
参加者数	68名

「倫理17000」

真に地域社会へ貢献し、倫理経営を顕著に推進している企業を認定するライセンス制度として平成16年からスタート。令和3年度は新たに8社を認定し、38社の更新審査を実施、認定証を授与しました。

認定企業数	254社

台湾では「模範企業研修」を初めてリモートで開催

海外の普及

「アジア（世界）のタグボート」を念頭に、国情に応じた倫理普及、および地球倫理の実践活動を推進し、海外倫理法人会の拡充を図りました。

台湾

中華民国倫理研究学会への定期的な講師派遣および「倫理文化講演会」は感染症拡大の影響により中止しました。アジア台湾企業倫理促進会では、3月～5月に「第二期倫理経営模範企業研修」をリモートにて実施。台湾における倫理経営模範企業の増強を図りました。

アメリカ

南カリフォルニア倫理の会は、組織運営と普及力の向上をめざし、若年層への普及を促進しました。カリフォルニア州倫理法人会は、人材の育成および組織の拡充を図り、新たな拠点開発に取り組みました。特にオンラインを活用して講話映像を毎月発信。また邦字新聞『ニューヨークＢｉｚ！』に倫理経営に関する記事を毎週掲載するなど、全米の日系人に向けて倫理経営を伝えました。

ブラジル

ブラジル倫理の会は、組織運営と普及力の向上を目指し、地球倫理に関する実践活動を検討しました。また、「ブラジル倫理の会設立20周年記念式典」をオンラインで開催。二拠点目となる「カンピーナス倫理法人会」の設立に伴い組織を改変した「サンパウロ州倫理法人会」は、人材の発掘・育成および拡充を図りました。

中国

「倫理研究所中国事務所」を拠点に、既に交流のある諸団体との関係を強化。諸機関とタイアップしながら、中国に於ける普及活動や人的および学術交流を推進しました。また「地球倫理の森」創成事業は疫禍により、第73・74・75次沙漠緑化隊の派遣を中止しました。

台湾・アメリカ・ブラジルの現地倫理法人会が主催する活動に、オンラインで研修・講話を発信

疫禍をチャンスに――新しい取り組み

コロナ禍における渡航制限下にあっても、随時海外の拠点と緊密な連携を取り、純粋倫理の学習機会を提供。Ｚｏｏｍを活用し講話を行なうなど、人がより良く生きるための万国共通のすじみちである純粋倫理をダイレクトに伝えています。

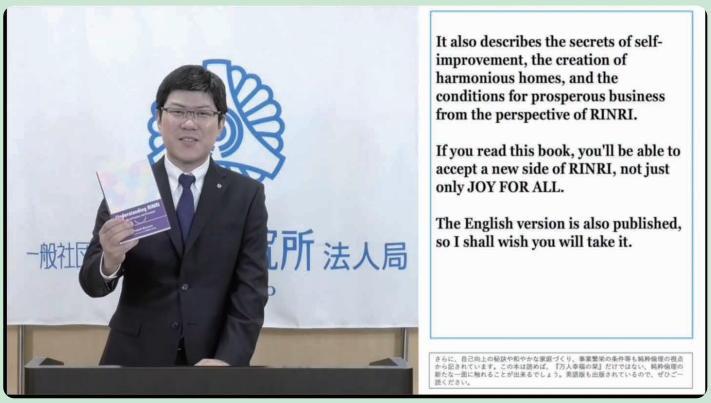
「オンラインを活用して日本から講話」

アメリカ・カリフォルニア州のロサンゼルス倫理法人会とオレンジカウンティ倫理法人会では、オンライン形式で「経営者モーニングセミナー」や、役職者研修などを行ないました。

地球倫理推進本部ではオンラインを活用して役職者研修に2回、経営トップセミナーに7回、経営者モーニングセミナーに24回、研究員や日本国内の役職者による講話や事前収録した講話映像を発信しました。

ブラジル・サンパウロ州倫理法人会に向けては、オンラインを活用して経営トップセミナーに9回、講話映像を発信しました。

ブラジル・サンパウロ州倫理法人会のオンライン研修



現地語の字幕をつけた講話映像

「小学生親子セミナー」では、富士の大自然を肌で感じる実習を通して、伸び伸びと倫理を学んでいく

倫理を学ぶ多彩なセミナー

富士山麓の自然豊かな富士高原研修所において、家庭倫理の会の会員を対象とした「生活倫理セミナー」、倫理法人会の会員企業の経営者や社員を対象とした「企業倫理セミナー」、小学生と保護者を対象とした「小学生親子セミナー」など、各種セミナーを開催しました。令和3年度は、2404名の受講者が純粋倫理の学びを深め、実践力の向上を図りました。

青少年育成セミナー

小学生親子セミナー

小学生は「学び・遊び・躾」、保護者は「こどもを信じる」をテーマに学習しました。

林業体験（木こり体験）をはじめ、チームワーク学習、キャンプファイヤーなど、豊かな自然環境の中で伸び伸びと過ごしながら自立心や協調性を養う実習を行ないました。（令和3年8月開催）

参加者数（6組）140名

中学生・高校生セミナー

中学生と高校生を対象に、富士宝永登山や即興芝居のチーム創作発表会などを通して、あきらめずに挑戦することや自分の意思をはっきり相手に伝えること、どんな人とも協力し合う心の大切さなどを体験的に学習しました。（令和3年7月開催）

参加者数 39名（中学生27・高校生12）

会員対象セミナー

生活倫理相談士セミナー

現状の問題点と今後の課題を確認し、倫理を正しく学び、楽しく伝えることを学びました。

参加者数（10組）469名

生活倫理セミナー

「心と体の免疫力を高めよう」をテーマに掲げ、課題に向き合う講座をはじめ、「まごころ実践5」や「短歌で交流」などこれまで以上の彩色を施した講座・実習を展開しました。

参加者数（7組）347名

特別セミナー

創立70周年および創始者生誕120年を記念して制作した映像全8章の鑑賞と解説をメインに、倫理運動の草創期とその時代背景を史実に基づき学習しました。

参加者数（2組）147名

企業倫理セミナー

経営者倫理セミナー

「まごころ実践17」のセルフチェックを基軸に切磋琢磨しあうチームワーク形成と、大変動の時代に真向かうための「生き抜く力」の醸成を図りながら、倫理経営の実践力向上をめざして講座・実習を展開。倫理経営による社会貢献意識を涵養しました。

参加者数（11組）600名

社員倫理セミナー

幹部社員・一般社員を対象に、自社における「活力朝礼」の積極的な活用法や、日常業務の改善・向上の原動力となる恩意識の深化を主軸に講座と実習を展開しました。

参加者数（6組）87名

新入社員倫理セミナー

社会人として第一歩を踏み出すために、参加者は挨拶や後始末などの日常生活での基本動作を体得しました。また、チームワーク向上を体感する講義・実習などを通して、参加者の活力を引き出すとともに学生気分の一掃を図りました。

参加者数（4組）96名

自主企画セミナー

県単位の倫理法人会役職者、1社単独、海外の経営者など、多方面の団体が単独で企画・実施できるセミナーを7組開催しました。

いずれも事前に綿密な打ち合わせを行ない、目的に応じたオリジナルのプログラムを実施しました。

参加者数（7組）168名

愛和のみそぎ

富士高原研修所開設以来、初となるセミナー「愛和のみそぎ」を開催。参加者はチャレンジコースを受講した方に限定。

自然を受容し感謝の心で「人・物・自然に接する意識」を見つめ直しました。さらには利他の心を涵養することに焦点を当てた「みそぎ」のプログラムを実施しました。

参加者数（2組）37名

書道や短歌などの文化活動

文化活動は、書道・短歌によって家族をつなぐ芸術活動を展開。また「第16回しきなみ子供短歌コンクール表彰式」を、しきなみ子供短歌賞・文部科学大臣賞の表彰のみに絞り、受賞者3名とその家族を含む33名で、規模を縮小して開催しました。（関連記事10頁）

伝統文化の継承だけでなく、子供たちの国語力・感受性の向上にも貢献する事業として、毎年文部科学省はじめ教育関係者からも高く評価されています。

秋津書道会

書道鍛錬により純粋倫理の学びを深め、生活の浄化と倫理普及に取り組みました。

また、世代をつなぎ家族の絆を深める「家族書道教室」の開催と、「初めての書道教室」などを開催して、会員に限らず広く参加者を募り活動の輪を拡げました。

会員数	4002名
会場数	252支苑
月刊誌『秋津書道』年間出品者総数	2万9697名

しきなみ短歌会

短歌づくりを通して純粋倫理の学びを深め、生活の浄化と個性の発揚をめざすとともに、倫理普及に取り組みました。世代をつなぎ家族の絆を深める「家族短歌教室」の開催と、地域の小中学校における「短歌教室」のボランティア、公共施設で開催する「初めての短歌教室」などを通して、地域の教育力向上に貢献しました。

会員数	5670名
会場数	337支苑
月刊誌『しきなみ』年間出詠者総数	6万2901名

出版物の刊行

倫理運動の普及推進に資する出版物の刊行を各部門と連携して行ないました。

定期刊行物

月刊誌

『新世』

生涯学習総合誌として、夫婦、親子、嫁姑、職場の人間関係を円滑にし、より良く生きるヒントとなる記事を掲載。各世代の読者層に純粋倫理をアピールしました。

人生の指針となる丸山理事長の巻頭論文「新世言」、子女名優の視点による「わくわく子育て親育ち」、次世代に残したい全国各地の伝統や文化をカラーで紹介する「美しきあきつしま」などのレギュラー記事のほか、毎号の「特集」では、社会の時流に添ったテーマを取り上げました。「実践の軌跡」では、主に子育て、疾病、夫婦関係、職場の人間関係、事業経営に関する手記を掲載し、それぞれに解説を加えました。

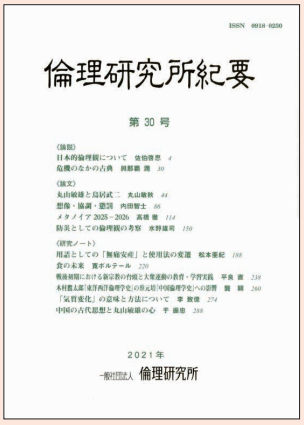
通巻	876号～887号
発行部数	133万1100部

『倫理』

純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門的研究に関する諸論考を掲載しました。（関連記事12頁）

通巻	813号～824号
発行部数	6万5400部

『倫理研究所紀要』（年刊誌）



純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化に関する専門的研究など、多様な研究成果を発信しました。（関連記事15頁）

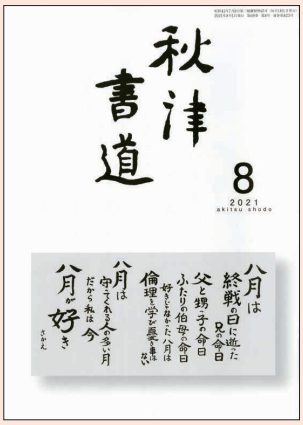
通巻	第30号
発行部数	1260部

『職場の教養』

多岐にわたる話題・事例を題材として、職場人としての行動指針を提供しました。朝礼での活用を通じて自己を見つめ直し、職場や家庭で実行できるよう、分かりやすい文章表現に留意しました。

通巻	537号～548号
発行部数	2218万部

『秋津書道』



丸山敏雄の書を学ぶ会員の相互研磨の場として、初心者から上級者まで各々の書境向上に資する内容の提供に努めました。

通巻	812号～823号
発行部数	6万3400部

『しきなみ』

短歌を通して純粋倫理の体得を目指す会員の毎月の作品発表の場として、出詠者数日本一の短歌誌の名に恥じぬよう、内容の充実に努めました。

通巻	894号～905号
発行部数	8万3100部

隔月刊誌

『倫理ネットワーク』

倫理法人会の情報誌として、倫理経営の要点や法人局研究員による連載を掲載し、会員各位が事業経営および倫理法人会活動において高い意識を維持できるよう、活力ある誌面構成に努めました。

通巻	146号～151号
発行部数	55万4000部

月刊紙

『倫研新報』

倫理研究所の主要事業・行事および、全国の家庭倫理の会、倫理法人会、海外活動などの報告記事を掲載。主な記事としては、「子育てセミナー」をはじめ家庭倫理の会設立、シニア発表会、青年活動など各地の家庭倫理の会の諸活動や、「倫理経営講演会」をはじめ、法人会の設立・開設式典、周年記念行事、年度目標達成に向けた取り組みなど、各地で行なわれた倫理法人会の諸活動を紹介。対外活動としては、「第16回しきなみ子供短歌コンクール表彰式」「第24回地球倫理推進賞贈呈式」「東日本大震災メモリアル2021」などを紹介しました。

通巻	759号～770号
発行部数	141万8500部

書籍

『みちしるべ』 丸山敏秋著

近年の『新世』の巻頭論文「新世言」の書籍化。「純粋倫理」に基づく人生の指針を示した1冊になっており、自己を磨き高めるための実践のヒントや、老年時代の生き方をテーマに、全29話を収録。

『夫と妻は合わせ鏡 ―夫婦の様々な悩みに答える』

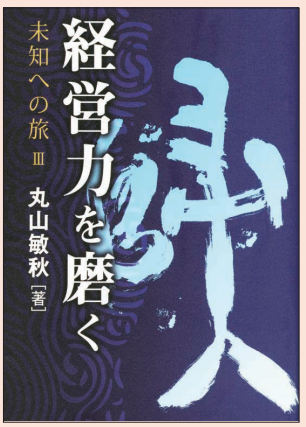
倫理研究所編

「倫理Q&Aシリーズ」の第二弾として夫婦の悩み、同居家族の問題に関する相談（計25本）について、純粋倫理の観点から回答しています。

『経営力を磨く ―未知への旅Ⅲ』

丸山敏秋著

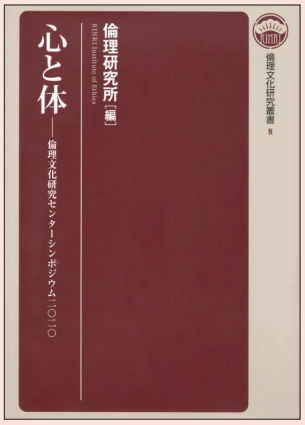
経営者が激動の時代を生き抜くためのヒントとして、様々な観点から日本の精神性を紹介しています。



『心と体　倫理文化研究叢書8』

倫理研究所編

倫理運動創始75周年記念行事として、令和2年11月に開催された「倫理文化研究センター第3回シンポジウム」を記録集としてまとめ、7名の研究者による研究発表とゲストを交えての討論を掲載しています。（関連記事13頁）



手帳・カレンダー

「実践手帳2022」

「グリーン」と「ピンク」（表紙デザインは変更）を発売。週間予定の上部には、既刊書籍から選出した倫理の言葉を掲載しました。

販売部数　8636部

「2021標語カレンダー　今日の道しるべ」

31日分の標語と3行のワンポイントアドバイスによって、純粋倫理の学びと日々の実践を明確に表わしました。

販売部数　13万4559部

会員の構成

会員は倫理研究所の趣旨に賛同し、倫理運動に参加する意志のある個人と法人によって構成されています。個人会員の組織を「家庭倫理の会」、法人会員の組織を「倫理法人会」と称します。ほかに文化芸術活動を行なう「秋津書道会」「しきなみ短歌会」があります。

会員数（公称 /2021 年 8 月末現在）

家庭倫理の会	130,000 名
倫理法人会	68,000 社
秋津書道会	4,000 名
しきなみ短歌会	5,700 名

会費（月額）

個人	500 円
賛助	1,000 円
協賛	3,000 円
特別賛助	10,000 円
法人	10,000 円（1口）

秋津 会員	1,500 円
〃　（ジュニア会員）	800 円
しきなみ 会員	1,000 円
〃　（ジュニア会員）	500 円

組織概要

名　称　一般社団法人倫理研究所
英文名称　RINRI Institute of Ethics
理事長　丸山敏秋
副理事長　前川朋廣
常任理事　鈴江 章／和田 毅
理　事　8名
監　事　2名
職　員　157 名
所在地　〒 102–8561
東京都千代田区紀尾井町 4-5
TEL 03-3264-2251　FAX 03-3239-7431
創　立　1945 年 9 月 3 日（倫理運動創始の日）
1948 年 10 月 30 日に社団法人設立許可
2013 年 9 月 2 日に一般社団法人へ移行
目　的　倫理の研究並びに実践普及により、生活の改善、道義の昂揚、文化の発展を図り、もって民族の繁栄と人類の平和に資する。
事　業　1. 社会教育事業
2. 研究事業
3. 出版・広報事業
4. 文化事業
5. 地球倫理推進事業
ホームページ　https://www.rinri-jpn.or.jp

創始者・丸山敏雄

1892（明治 25）年5月5日、福岡県豊前市生まれ。広島高等師範学校を卒業し、師範学校などの教諭として奉職。37 歳で広島文理科大学に入学。日本の精神文化、歴史を探究するとともに、書道や短歌など芸術分野でも研鑽を積む。1938（昭和 13）年に「秋津書道院」、1946（昭和 21）年に「しきなみ短歌会」を創設。さらに、長年にわたる宗教や道徳などの研究を土台に、自らの実践、体験を積み上げながら、「人間生活のすじみち」を研究し続け、それを純粋倫理と名づけた。その後、数多くの論文を発表しながら純粋倫理を体系づけることに力を注ぐ。

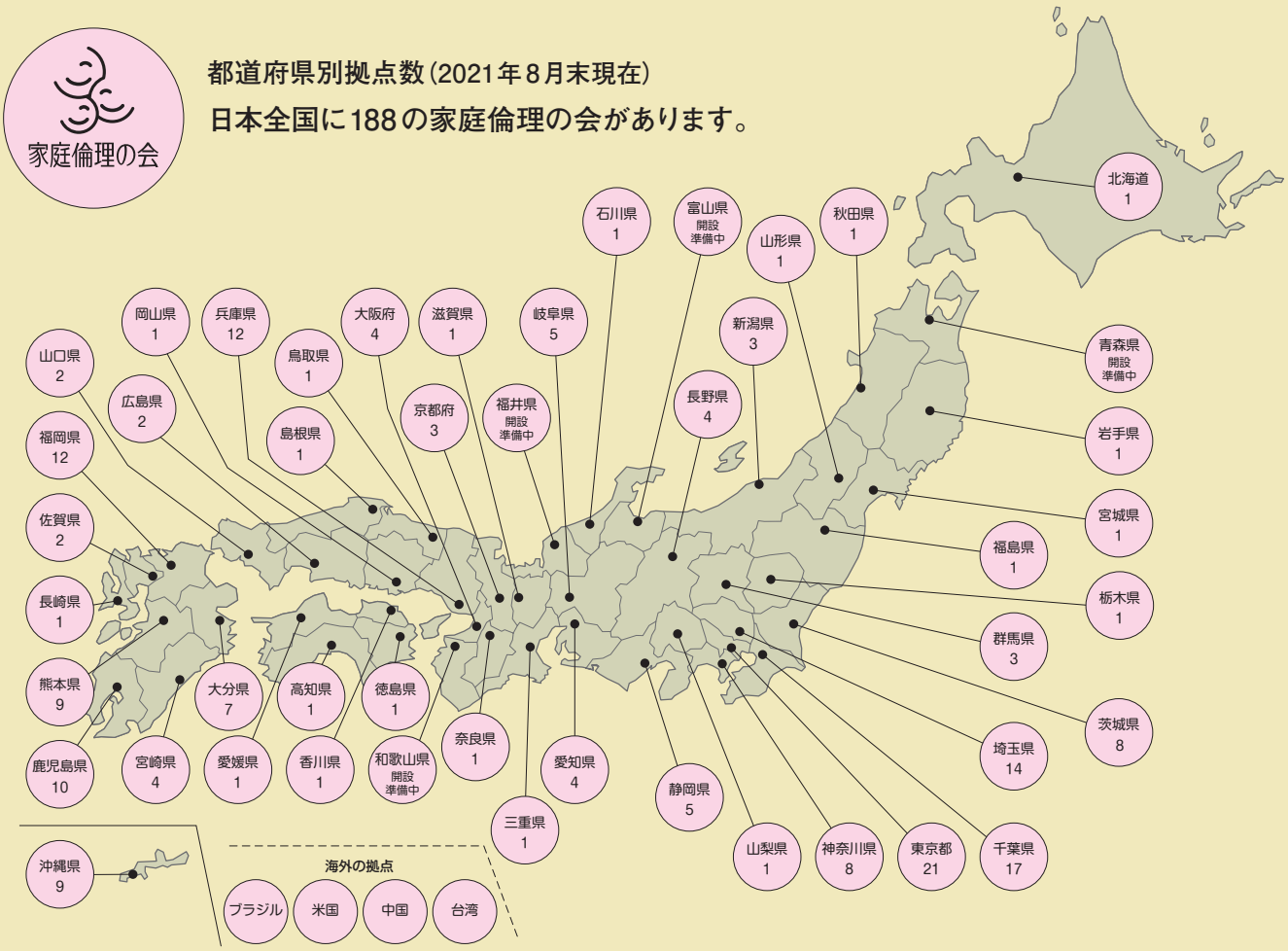
1945（昭和 20）年に倫理運動を興し、翌年、「新世文化研究所」（現・倫理研究所）を創立。自ら陣頭に立ち、一人でも多くの人に純粋倫理を伝えるべく、教育や講演、研究、執筆に身命を賭す。『万人幸福の栞』『無痛安産の書』『人類の朝光』など著書多数（すべて新世書房刊）。

1951（昭和 26）年 12 月 14 日逝去。

家庭倫理の会

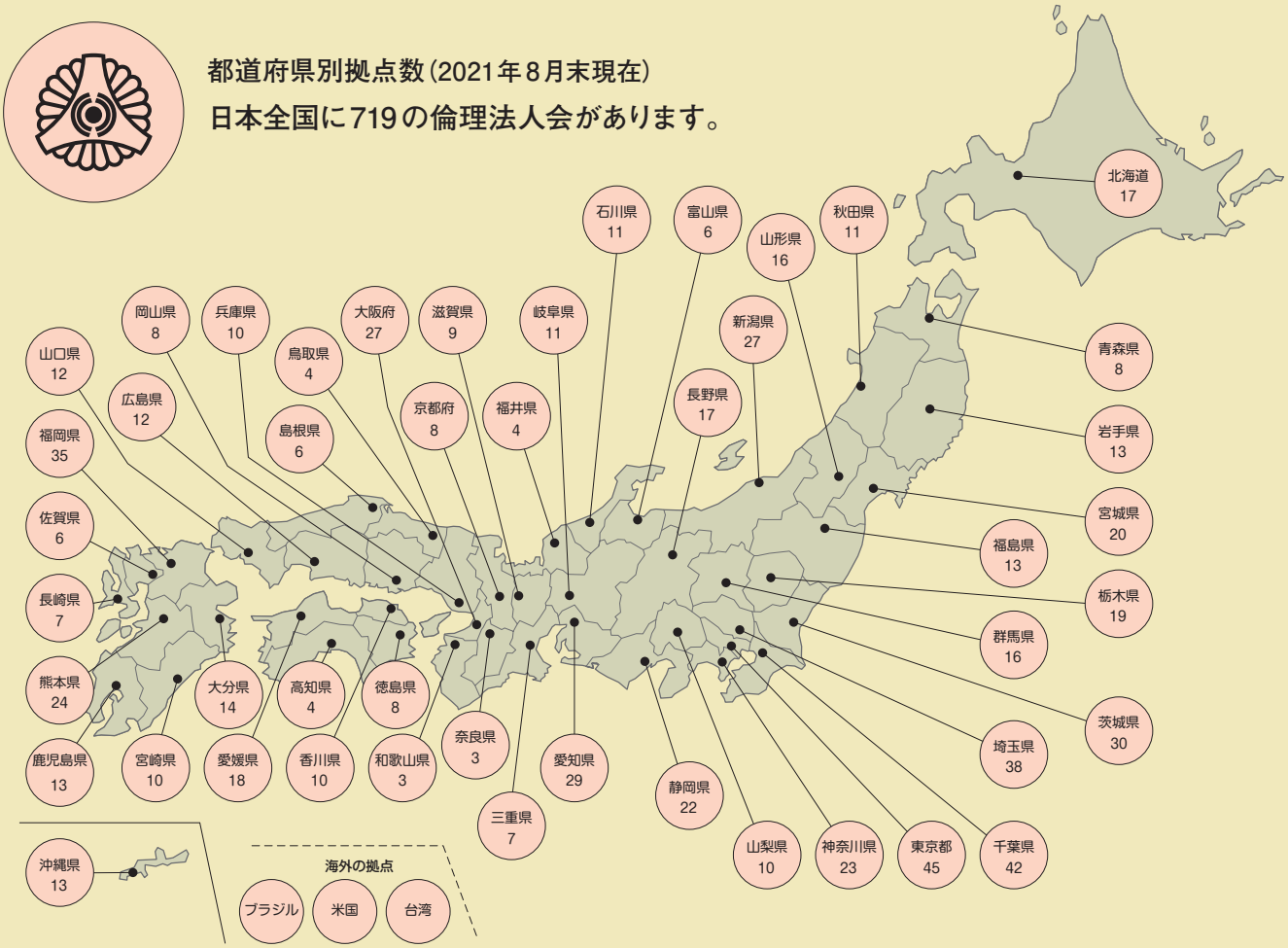
都道府県別拠点数（2021年8月末現在）

日本全国に188の家庭倫理の会があります。



都道府県別拠点数（2021年8月末現在）

日本全国に719の倫理法人会があります。



主要施設

倫理研究所（本部）

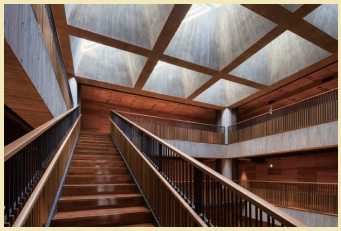
倫理運動推進の本部として、研究・普及・教育・企画・出版・広報などの各種業務を行なっています。

〒102-8561　東京都千代田区紀尾井町 4-5

紀尾井清堂

倫理運動創始 75 周年を記念して令和 2 年に建設。本部の真向かいに位置し、展示室やホールを備えています。

〒102-0094　東京都千代田区紀尾井町 3-1



富士高原研修所

純粋倫理の理論的・実践的学習の場として、小学生から成人を対象にした各種セミナーを行なっています。施設として、富士高原研修所・富士倫理学苑・富士万葉植物園・丸山敏雄記念館があります。

〒412-0008　静岡県御殿場市印野 1383-9

倫理資料館

創始者の遺品・遺墨、倫理・道徳に関する専門図書のほか、倫理運動史料や記録などの蒐集・保存整理を行なっています。

〒180-0022　東京都武蔵野市境 5-6-25

天和会館

倫理運動の創始者・丸山敏雄の生家（2006 年復元）に隣接した会館。主に倫理研究所の研修施設として活用されています。

〒828-0081　福岡県豊前市大字天和 392-1

沿 革

1945 年　丸山敏雄、論文「夫婦道」起稿。倫理運動を創始。
1946 年　新世文化研究所設立（初代所長、丸山敏雄）。
短歌誌『しきなみ』創刊。
1947 年　新世会設立。翌年、社団法人の許可を受ける。
月刊誌『文化と家庭』創刊（1949 年『新世』へ改題）。
1948 年　「新世会」が社団法人の許可を受ける。
1949 年　「朝の集い」開始（上野、神田、銀座、市川）。
1951 年　新世会を倫理研究所と改称。丸山敏雄逝去。
丸山竹秋、理事長に就任。
1952 年　月刊誌『倫理』創刊。
1953 年　月刊誌『秋津書道』創刊。
1958 年　『10 分間の教養集』創刊（1976 年創刊の『職場の教養』の前身）。
1966 年　富士高原研修所竣工。
1967 年　中日支所設立、支所体制がスタート。
1968 年　初の「全国青年弁論大会」開催。
1973 年　アメリカ・ロサンゼルスに拠点開設。
1980 年　千葉県に第 1 号の倫理法人会発足。
1984 年　「天和会館」（丸山敏雄生誕地記念館）落成。
1985 年　丸山竹秋が「地球倫理の推進」を提唱（創立 40 周年記念大会にて）。
1986 年　中華民国（台湾台中市）に拠点開設。
1987 年　第 1 回日中実践倫理学討論会開催。
1989 年　丸山竹秋、藍綬褒章受章、社会教育功労者表彰。
1990 年　倫理法人会 1 万社達成記念大会開催。
1991 年　年刊誌『倫理研究所紀要』創刊。
1995 年　丸山竹秋が地球倫理推進の運動方針「アジアのタグボート」を発表（創立 50 周年記念大会にて）。
1996 年　丸山敏秋、理事長に就任。
1997 年　「第 1 回地球倫理フォーラム」（「まなびピア新潟」協賛）開催。
1998 年　第 1 回地球倫理推進賞贈呈式開催。倫理資料館竣工。
1999 年　創立 55 周年記念中国クブチ沙漠「地球倫理の森」創成事業スタート。丸山竹秋逝去。
2000 年　ブラジル・サンパウロに拠点開設。
2001 年　新富士高原研修所グランドオープン。
2003 年　第 1 回こども倫理塾大会を開催。
2005 年　個人会員組織を「支所」から「家庭倫理の会」に改称。「朝の集い」を「おはよう倫理塾」に改称。
2006 年　第 1 回しきなみ子供短歌コンクール表彰式開催。
創始者生家（復元）竣工。
2007 年　倫理法人会 5 万社達成記念大会開催。
2009 年　「地球倫理の森」創成 10 周年記念大会開催。丸山竹秋没後 10 年記念大会」を開催。
2010 年　日中実践倫理学討論会 2010 開催。
2011 年　富士教育センターオープン 45 周年記念式典開催。
グランドデザイン完成。
2012 年　創始者生誕 120 年記念式典開催。
2013 年　一般社団法人へ移行。
2014 年　「地球倫理の森」創成 15 周年記念式典開催。
長年の沙漠緑化活動が「第 6 回中国環境発展要人フォーラム」で表彰される。
2015 年　「地球倫理の森ウランブハ」創成事業スタート。創立 70 周年記念全国青年弁論大会開催。
2016 年　倫理法人会全国代表者大会開催。台湾に亜細亜台湾企業倫理促進会設立。本部移転。南カリフォルニア倫理法人会設立。富士教育センター開設 50 周年記念式典開催。
2017 年　オレンジカウンティ倫理法人会設立。
サンパウロ倫理法人会設立。
2018 年　カリフォルニア州倫理法人会設立。
2019 年　全国青年フォーラム 2019 開催。「地球倫理の森」創成 20 周年記念式典開催。カンピーナス倫理法人会設立。
2020 年　創始 75 周年記念事業として建設を進めていた紀尾井清堂が竣工。

倫理会館

岐阜倫理会館
〒 501-0234 岐阜県瑞穂市牛牧 1496-1

大阪倫理会館
〒 534-0025 大阪市都島区片町 1-7-20

加古川倫理会館
〒 675-0055 加古川市東神吉町西井ノ口 642-1

広島倫理会館
〒 733-0012 広島市西区中広町 3-24-16

大牟田倫理会館
〒 836-0006 大牟田市大黒町 1-29-1

京都倫理会館
〒 605-0907 京都市東山区川端五条下ル西橘町 470

神戸倫理会館
〒 658-0084 神戸市東灘区甲南町 4-14-16

龍野倫理会館
〒 679-4167 たつの市龍野町富永 410-1

北九州倫理会館
〒 802-0077 北九州市小倉北区馬借 2-7-28

鹿児島倫理会館
〒 890-0064 鹿児島市鴨池新町 21-2

一般社団法人 倫理研究所　令和3年度 年次報告　ANNUAL REPORT 2020-2021

一般社団法人 倫理研究所

〒102-8561 東京都千代田区紀尾井町 4-5　TEL 03-3264-2251
ホームページ https://www.rinri-jpn.or.jp

発行：一般社団法人倫理研究所　編集：倫理研究所総務部　発行日：2022.1.20